

KENTA Report



発行/秋田県議会議員 鈴木健太
〒010-0842 秋田市手形山北町 4-5
TEL 018-883-0605 FAX 018-838-0785

鈴木けんた 県政レポート 2017夏号



6月、県議会一般質問に立つ

鈴木けんた

自由民主党 秋田県秋田市第11支部長



皆様にごいただいた4年間の任期も、ついに後半に入りました。常に『どうすれば本当に秋田を変えることができるのか』を考え、なれあいに流されず、かつ単なる批判に終わることなく、物事を実現するための力をじっくりと身につけているところですが、それを皆さんにお伝えできているかと言われると…正直自信はありません(T_T)ですので、この夏もまたKENTA Reportで私の県政活動の一端を報告させていただきます!

任期後半の2年間、委員会が変わりました!

所属委員会 **総務企画委員会 副委員長**

人口減少問題に正面から取り組む県庁の新しい部
「未来創造部」

県の財政全般や防災、国民保護を担当する
「総務部」

平成30年度からの4年間の総合戦略を策定する
「企画振興部」

上記の3部を所管する大事な委員会の「副委員長」を拝命しました! 責任ある立場で経験を積み、少しずつ発言力を強くしてまいります。

2017春→夏

県内外各地の現場を動き回ってます!



有事を想定した避難訓練の視察



男鹿市の防空レーダー施設の視察



艦艇広報など自衛隊の諸行事を全面的に支援

弾道ミサイルの脅威について

3月に男鹿市北浦で行われた「弾道ミサイルを想定した避難訓練」を見てまいりました。国民保護サイレンが鳴り不安そうに体育館へ避難する児童たちを見て、このような訓練をする時代になってしまったことが本当に残念で申し訳なく思いました。

県としてできることは限られていますが、私は自衛隊出身の議員として、みなさんの生命を守るために、実効性ある備えを整える努力をしております。

6月には県議会防衛議員連盟の事務局長として、県議会議員団を男鹿のレーダーサイトの視察へお連れし、県内の防衛態勢に関する理解を深めていただきました。また秋田県防衛協会の事務局長としても、多くの自衛隊関係行事の支援を通じて県民と自衛隊との架け橋になれるよう努めております。

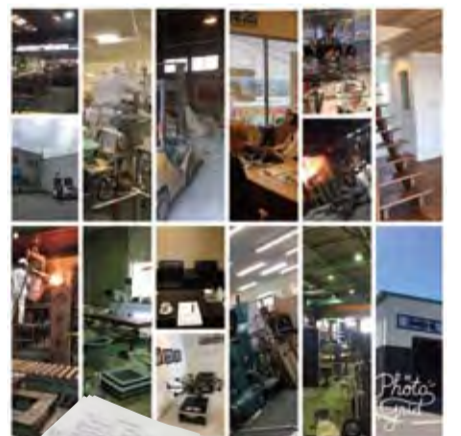
□□□□□

自分的現場力育成事業

議員になって早2年、いつまでも「知らない、わからない」では通用しませんので…県職員や先輩・同僚議員を説得できるだけの知識を得るため、県内外の「現場」に足を運んで猛勉強中であります!

①1月以降これまでに約110の中小企業・団体などの職場を訪問し、県内経済の実情を学ばせていただいております。

②地元消防団の選手(城東分団1番員)として秋田市操法大会に出場、なんとポンプ車操法の部で優勝しました!防災や国民保護の体制を語る前に、一度現場を知っておきたく挑戦しましたが…必死に頑張った甲斐がありました(涙)



自らの現場力育成事業として訪れた県内企業



必死の形相ですが右膝が曲がっているので減点



K's column

自民党秋田県連の青年部長として



このところ政府や自民党議員の言動について、皆様から多くのお叱りをいただいております。わが国を取り巻く経済・外交情勢が極めて不透明であるにもかかわらず、本題とは異なる論点で政治が空転してしまっていることに対して、党の一員として心からお詫び申し上げます。全国の自民党青年局長である鈴木馨祐衆議院議員が先日このように語っておりました。「野党に政権担当能力がない今、与党が道を誤ればすなわち国難となってしまう。だからわ



れわれ青年局長が、時には党内野党としてしっかりと発言し、これを正していくつもりでなくてはならない。」まさにこの言葉どおり、われわれ若手が臆することなく党内で物申し、皆様からの叱咤を党の方針にしっかりと反映していかなければならないと考えております。これからも厳しいご指導をよろしくお願いたします。

みなさんの集會に「けんた」は行きます!

その他にも、どんな小さな集まりでも結構です。県政に望むこと、聞きたいこと…皆様の生の声を伺いに「鈴木けんた」が参ります。

◎お問い合わせは TEL.018-883-0605 けんた事務所まで

http://suzuken-akita.com 鈴木けんた 検索

県内の大雨被害への対応について

7月22日・23日の大雨による被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。県内で床上浸水や農業・土木関係に大きな物的被害が出るなか人的被害がほとんどなかったというのは、消防、警察、行政や地域の皆様方の大きな功績ではないでしょうか。皆様方の献身的な奮闘に感謝と敬意を申し上げたいと思います。

その中で佐竹知事と県庁の災害対応に大変な問題がありました。詳細がわかるにつれ、知事個人の判断ミスのみならず、県庁組織の危機管理体制の驚くべき甘さや防災意識の低さが明らかになっています。そもそもあの豪雨予報の中なぜ県トップが私用で県外に(しかも行き先も告げず)出かけたのか、なぜ誰も電話連絡をしなかったのか、なぜメール受信の確認もしなかったのか、なぜ警報発令の情報に接しなお帰県の判断に至らなかったのか。元自衛官の私には信じられない行動の連続です。そして過度に部下をかばってしまう県庁の強い身内意識・・・

今回の件は、県民の生命・安全に直結する重要な課題を多く含んでいます。しかし何より大事なのは、当面の災害復旧と今後の危機管理体制の再構築でしょう。私は大雨二日目の23日、約7時間かけて市内の各浸水箇所等を見て回りました。現場を見て初めてわかることはたくさんあります。議会では防災を所管する総務企画委員会ですので、今回得られた教訓を生かして建設的に県の体制を見直していきたいと思います。



2017
6月

建設的に、言うべきことをしっかり言う。

議会一般質問

—要旨—

国の未来投資戦略について

世界各国が第4次産業革命を目前にし、経済社会システムそのものの変革に突き進んでいます。政府がまとめた「未来投資戦略2017」では、遠隔診療、人工知能による医師の診療支援、介護ロボット等の導入などによる健康・医療・介護分野の抜本的な改革をはじめ、無人運転トラックの隊列走行、ドローンによる荷物配送など、わが国も近未来の全く新しい社会を目指していくことが明らかになっています。しかもこれらは30年後の話ではなく、せいぜい3年後から5年後という期限を区切って、政府がまじめに実現を検討していることです。もしこれは東京の話であって秋田には関係ないと思われたとすれば、その発想こそが今日の本県の経済衰退を招いた大きな要因であって、少子高齢化の最前線にいる本県こそが、国のこのような大戦略に最も敏感でなくてはなりません。

戦略なき戦術を繰り返してきたことが本県低迷の最大の原因である、と話す県民は少なくありません。この度国は未来投資戦略という具体的な絵を描きました。本県の描くビジョンも、これと整合性をもちしっかりとついでいくものでなくてはなりません。そして何より、この夢のある近未来像の秋田版を明確に指し示すことで、様々な世代の県民に夢を与えることができるのではないのでしょうか。これから策定する第3期ふるさと秋田元気創造プランは、国の未来投資戦略を強く意識したものとされることを要望いたします。

過疎地域の将来像について

先日、県内の小規模高齢化集落、いわゆる限界集落をいくつか訪れて関係者からお話を聞きましたが、その内容は私が外部で勝手に想像していた「限界集落」のイメージとは全く異なるものでした。悲愴感などはなく、年寄りが多いけど元気な人が多い、日々畑を耕して生き生きと暮らしている、というのです。その方々にとってみれば、東京のようなところで不自由に暮らしている人の方がよっぽどかわいそうだと思っただけ、と聞いて私は驚愕しました。



一口に過疎だ限界集落だと言っても、積極的に町おこしを頑張っている集落から、わずか数世帯十数人という規模でゆっくりと今を生活している集落まで、その支援ニーズも多様であると思います。限られた財政状況の中で、余計なお世話になってしまうような支援ではなく、本当にその地域の住民に喜ばれるような施策を、きめ細かく検討していかなければなりません。そしてそのためには、県としてそれぞれの過疎地域の将来像をどのように描いていくのかという具体的なグランドデザインがそろそろ必要だと思いますが、それについて知事のご所見をお聞かせください。

人口目標に対する考え方

本県の人口が100万人を下回ることであり、婚姻率が17年連続、出生率に至っては22年連続全国最下位という不名誉な大記録を達成してしまっている原因の一つ

には、私はやはり行政側の働き方が影響しているのではないかと考えています。

平成28年の出生数は5,666人、婚姻数は3,510組であり、ともに県の年間目標を大きく下回ってさらに減少の一途をたどっています。それに対し、**県がまとめた政策・施策評価が「概ね順調」というのは、一般人には理解しかねるものであります。**昨年度の県民意識調査においては、この少子化対策に関して20代・30代の子育て世代の7割以上が不十分であるとの認識を示しています。

「脱少子化モデル企業数」や、「結婚サポーター登録者数」などの施策目標が達成されていることをもって「概ね順調」という評価になっているのですが、それらの中間目標が達成されていても肝心の最終目標である婚姻数や出生者数が遠く目標に及んでいない、というのが現状です。である以上、最終目標をもっと確実に達成できるように中間目標を設定し直すことが必要でしょう。

人口統計を見る限り本県は存亡の危機へと向かっております。**今これから、これまでと大差のない4年間を過ごすのか、かつてないほど官民が一体となって死に物狂いで頑張るのか、今の子ども達の将来が大きく変わるの間違いありません。**知事にはリーダーとして、ふるさと秋田を救うために、県職員の能力を最大限に発揮できるような目標設定をお願いし、この点についてご所見を伺います。

観光施策における顧客目線について

「真のマーケティングは顧客からスタートする。『われわれは何を売りたいか』ではなく、『顧客は何を買いたいか』を問うべきである。」とはピーター・ドラッカーのマーケティング理論ですが、**なかなか結果の出ない本県の観光施策にはこの観点が欠けています。これまでも秋田北空港での犬用トイレ整備、秋田県独自の内容しか出てこない観光情報アプリなど、これが本当に顧客の望むものだろうかと首を傾げたくなるものが目につきました。**



この顧客が何を望むのか、という難しい問いに答える調査事業が昨年行われました。外国人に県内を公共交通機関で旅行してもらい、実際に感じた不便を改善点として報告するものですが、やはり言語

対応の人的態勢、看板やメニューなどの多言語への翻訳、多様な二次アクセスの拡充あたりが外国人目線で求められる主要な改善点である、という結果が明らかになっています。

これらの調査結果は県と情報共有がなされていたのか、またはいかなる改善策を講じる予定なのかお知らせください。

その他、他言語メニュー作成支援等施策について・健康経営優良法人の認定制度についてを一般質問で取り上げました。

KENTA Report バックナンバーのご案内

下記連絡先へ電話またはメールで住所・氏名・電話番号、ご希望の号と枚数をお知らせください。ぜひお知り合いの皆様へもお配りください!

TEL: 018-883-0605
E-mail: kidsfuture@suzuken-akita.com



Vol.1 / 2015 夏号

Vol.2 / 2016 春号

Vol.3 / 2016 冬号

Vol.4 / 2017 夏号 (本誌)



県議会での質問動画

◎スマホでご覧いただけます



【プロフィール】

昭和50年大坂府生まれ、神戸市育ち。小学校から高校まで野球部(一貫して弱小チーム)。京大法学部在学中は、料亭、バーや建設作業など様々な世界を経験する。大学卒業後、陸上自衛隊に幹部候補生として入隊、主に第一線部隊で勤務。平成18年退職し、妻の地元秋田へ移住。1年あまりの無職生活を経て司法書士試験に合格。現在司法書士として多くの相続事件を手掛けるとともに認知症高齢者の成年後見人も務める。妻と子4人の6人家族。趣味はスポーツ観戦、アウトドア全般。

【現在の主な役職】

秋田県防衛協会 事務局長
秋田県ミニバスケットボール連盟 顧問
秋田県エアロビック連盟 会長
秋田県議会防衛議員連盟 事務局長
広面小学校 PTA副会長
城東中学校 PTA副会長
広面地区体協 理事
広面商工振興会 事務局次長
公益社団法人成年後見センター
リーガルサポート秋田支部 幹事
司法書士法人岡田事務所 共同代表



●最近の私的な日々

春先、子どもたちの部活も私の仕事も何もなかった奇跡的な日に、残雪の鳥海山へ行ってみました。一番上は中学2年生、家族全員で出かけるのもあと何年もないな~(涙)などと思いつつ... 私の両親は新聞販売店をやっていたので、毎日家族は一緒でした。そのせいでしょうか粘着質な父親になっているようで、ドライな妻の失笑を買っています。



小学校の運動会では足がもつれ...

新屋鹿嶋祭りはこっそり見学